

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173100304		
法人名	有限会社ヘルパーステーション		
事業所名	有限会社ヘルパーステーション		
所在地	埼玉県熊谷市野原135-6		
自己評価作成日	平成24年2月14日	評価結果市町村受理日	平成24年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1173100304&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成24年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の起床の時間や食事の時間などそれぞれ生活のパターンは違うものなので、高齢者1人1人の長年の生活習慣や好みに合わせたケアが出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然林に囲まれた広い敷地に、木の温もりを感じる、2ユニットのグループホームである。採光の良い室内は、清潔感があり、木組みの高い天井が、趣きを出している。ホームのガラス越しには、緑の木々がよく見え、安らぎを感じる。ヘルパーステーションを中心に、放射状に居室が並び、職員、入居者、共に見通しがよく、全体の動きもよくわかるようになっている。職員は、一人ひとりの個性を把握しながら、入居者本位の支援が出来るよう努めている。管理者は、働きやすい職場作りと、入居者が穏やかに笑顔で過ごせる事を願い、職員と共に、日々実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員と理解し、ミーティングや申し送りなどで理念について確認をしている	「あにもの森」全体の事業所理念を、朝夕の申し送り時に確認し、一人ひとりの立場に立ち、人格を尊重した支援を目指し、実践につなげている。ホームの理念を皆で作り上げ、検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周囲に住宅が少ない環境にあり、かかわりは少ないが、利用者の家族を通してボランティア団体との交流などをしたり、近隣の散歩に出かけた際に声をかけ、挨拶を交わしている。	ホーム周辺に住宅が少なく、地域との関わりが日常的に持てない環境であるが、踊りのボランティア、ダンス、太鼓等、交流を図っている。散歩時に近隣の方と挨拶を交わしている。自治会加入についても自治会長に話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に理解していただけるよう、事業所でのイベントなどにお誘いをしたりし、利用者様と触れ合っていたくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業運営の理解や参加メンバーから質問を受け双方からの意見等を考慮しサービスの向上に努めている。	会議は4回実施した。家族代表や包括の担当者等の参加を得ている。報告を中心に情報交換等で運営への意見はあまり聞かれなかった。今後のより良い取組みを考えている。	今後も回数を増やし、会議の中身の充実を図り、ホームをアピールし、地域に密着した、親しまれる事業所となる事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に訪問し事業所の実情や家族の意見、施設運営等の相談をしたりしている。	管理者は、電話や直接訪問して連携をとっている。グループホーム調査表を届ける機会に、取組みや現状報告、家族の意向を伝え、施設運営についても理解と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度は身体拘束についての研修を行っている。また、マニュアルを作成し職員全体に周知できるようにしている。	身体拘束しないケアを事業所全体の方針として掲げ、職員が共有、実践している。言葉掛けにも気をつけ、ホームでは話し方の研修も年1回行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し職員会議等で虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見についてのマニュアルを作成している。機会があれば職員に対し研修を行い、説明を行っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う前に事業所の概要や料金を細かく説明し納得していただいてから、契約を行う。契約時には声明しながら説明し、トラブルのないよう契約書以外にも別紙を作り説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、職員と管理者が話し合う機会を設けている。そこでご家族様の意見や要望をどのように受け入れていくか検討している	入居時の希望や要望を把握し、要望に添えるよう努めている。又、家族向けアンケートを年1回実施し、参考にしている。家族から居室のガラスの変更意見を頂き、曇りガラスやシートを張って対応したり、面会時間を延長した。頂いた意見は、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員と管理者が話し合う機会を設けて職員の意見や提案を聞き、運営に活かしている また、個別相談等も行っている	ケアリーダーや管理者は、定例会議で職員の意見を聞き、又、個別相談に応じ、現場主体の運営を大切にしている。年1回職員アンケートを実施し、活発な意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の幹部会にて職員の勤務状況や実績を報告している。また、労働に過度の負担がかからないよう注意しながら勤務作成に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し、研修支援を行い、報告してもらったり、事例発表会などを行い働きながらスキルアップができるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所に訪問し、情報の交換をおこない、外部の意見や経験をケアに活かすように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人や家族と面会し要望等を聞いている。また、できる限り本人の情報を収集し、本人が安心して生活を送れるような環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と相談し家族の観点から本人をどのようにケアをして欲しいか。また、不安なことや困っていることを相談している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居をする前に面接し、家族や本人としてどのような希望や要望があるのか、それをふまえた上で必要なサービスの情報の提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のニーズを理解し、馴染みの職員となるべく一緒に過ごせるように支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人をどのように支援をしていくか、家族が何を望んでいるのかを把握しながら支援をしていて、家族に対して状況の報告を行い、家族も一緒になって考えてもらったり協力してもらおうようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方などの関係が途切れないよう、連絡先を伺い、本人の訴えなどがあるときには連絡ができるようにしている。また、馴染みの場などはご家族に協力してもらい、連れて行ってもらうようにしている	入居後もこれまでの関わりが継続されるように、馴染みの美容院へ行き、定期的に面会に来られる方もいて、外食、外泊も家族の協力を得て行われている。知人、友人の面会もあり、途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の気の合う仲間作りや孤立しないよう職員が間に入り、コミュニケーションの支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に関して求められた情報に丁寧に説明を行っている。また、契約が終了したご家族様からの紹介で見学に来られる家族もいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より、本人がどのように生活してきたか把握し、できる限り本人の生活パターンを変えないような支援をしている。また、本人の意向やニーズを取り入れ介護計画を作成している	入居前に詳しく調べた基本情報をもとに、一人ひとり異なる意向を把握出来るよう、個人の生活や意向を中心に、24時間シートに書込み、希望の生活に近い生活が出来るようになり、入居者に喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接調査等で細かく調査し、入居後においても馴染みの暮らしができるように日課表を作成し、できるだけこれまでの暮らしが継続できるような支援を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向やニーズ、暮らしぶりを主においた日課表を作成し状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の今までの暮らしが継続できるように、家族や関係者と相談し、家族や本人の意向に近づけられるように介護計画を作成している	家族の意向は、面会時を捉え、聞いている。暮らしの中で気付いた事も加え、ユニット担当者が計画を提出し、参加出来る方は、家族や入居者も参加し、会議で検討し、介護計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人記録にケアの実践記録やその結果等を記録し申し送り等で情報の共有をしながら工夫をして介護計画作成時に見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や意向は常に変化しているので、家族や本人とのコミュニケーションや相談は欠かさず行えるようにしている。極力、本人や家族の意向に添えられるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア団体や地域資源を定期的に利用させてもらい、入居者が安心して楽しく生活ができるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関のほか、以前からの、かかりつけ医でも医療を受けられるように支援をしている	協力医と以前からのかかりつけ医を入居者が選択し、相互に医療情報を交換している。月2回の往診も行われ、かかりつけ医に家族が同行する場合は、受診結果を共有している。歯科助手による口腔ケア指導も行い、看護師との連携もとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、入居者の健康管理や状況の把握をしている。また、介護職員と連携し、日常の中での気づきなどを相談し、早期の対応ができるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際にはサマリーで情報の交換をしたり、病院のソーシャルワーカーとも協力し、早期の退院に対応できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する指針を定め、家族との意思確認を行っている。本人や家族の意向などは変化していくので、終末期になった場合でももう一度確認をし説明をしている	契約時に指針を説明し、24時間医療処置が必要になった場合は、医師から家族に説明し、関係者が今後の方針を話し合い、入居者、家族にとって、適切な医療を受けられるよう、可能な支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による指導を研修で取り入れ、全ての職員が応急手当や初期対応ができるようにしている。また、マニュアルも作成し、職員がわかりやすい場所に掲示してある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に二回の消防訓練を行っている。また、年に一度は消防署に協力をしてもらい、指示や指導をもらっている	年2回、初期消火、安否確認、避難誘導等の防災訓練を実施している。現在、スプリンクラー設置の工事を行っている。併設の有料老人ホームには、水や食料等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の方針を事業所内に掲示するとともに、申し送り等で職員に対して注意をしている	誇りやプライバシーの確保をケアの基本とし、入居者一人一人の人格を尊重し、排泄、入浴時の言葉掛けに注意し、同性介助としている。トイレの仕切りがカーテンになっている為、改善策を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と供に考え希望に添えるように職員と働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで生活が送れるよう、入居者の希望や意向を調査し、希望に添えるような支援ができるような日課表を作成して、職員はそれに基づき支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の自己表現ととらえ、本人の希望に沿った身だしなみやおしゃれができるように本人と相談しながら決めている。自己表現が難しい方に関しては職員と一緒に考えて決めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しんで食事ができるように本人の食事の好みや食事の仕方などの把握を個々にしている。また、自分で行える方には準備や配膳をお願いしている	副食は業者に依頼し、ご飯と汁物は作っている。入居者と一緒のみそ汁等の具材を切り、食事を準備し、おやつ作りも、入居者と一緒を楽しみながら作っている。職人を招いた握りすし、刺身、てんぷら等の特別食も喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量やバランスを職員が把握し、変化があれば看護師、栄養士と相談し情報の共有に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に声掛けを行い、本人の能力に合わせた形で口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望などを把握してできるだけその形に近づけられるように排泄パターンを把握し、個々に排泄の支援をしている。	排泄チェック表や、個別の排泄パターンを把握し、一対一でトイレ誘導し、個々に合わせた排泄の支援をしている。寝たきりの方も立ち上がりの練習をし、トイレに行けるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄状況を常に把握し、看護師と相談しながら、飲食物や運動の働きかけを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日や時間帯は決めているが本人の意向や状態により、入浴できるように支援をしている	週2回、午前中を基本とし、本人の希望や好みに応じて、個浴や大浴場での入浴を実施している。気の合った人との入浴や、同性介助も行っている。職員は、出来るだけ入居者の希望に添った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンを崩さないように状況に応じ休息をしていただいたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬は看護師が管理しており、指導を指導してもらっている。また、症状の変化についても看護師や医師と相談しながら連携をはかっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の入居の際にどのような歴史を歩んできたのか、どのような趣味等があったのか情報を本人や家族から聞き取り、それを活かした支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日にはできる限り散歩などの支援を行い社会とのかかわりができるようにしている。また、普段は行けないような場所について、家族と相談し協力していただいている	天気の良い日には、自然林の広い敷地を散歩し、車で初詣や花見に出掛け、外出を楽しんでいる。本人の希望を把握し、外食や外泊が叶えられるよう、家族の協力を得ながら支援している。又、おやつを買いに、車で月1回、出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方が居ないが、利用者が金銭を所持することにより落ち着いたりする方も居るので、金銭を所持していてもなくさないように支援をするよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出したり、希望があれば電話したり、家族との手紙のやり取りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごせるように居心地の良い環境を作るようにしている。また、季節感を感じていただく為、施設内に季節の花などを飾り付けている	リビングは採光が良く、清潔で、トイレも2時間毎にチェックし、臭いの無いよう気配りしている。天井も高く、木をふんだんに使った、ぬくもりを感じる作りで、季節の花も飾っている。併設のショートステイ利用者との交流もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がくつろげる様にソファを置き、利用者同士や家族の面会時に一緒にくつろいだりしていただける場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が穏やかに生活出来るよう居室には馴染みの物を持ち込んだりしてもらっている。また、居室は本人が以前に住んでいた環境にできるだけ近づけるように配置を考えている	馴染みの家具を持ち込んでもらい、居心地良く生活して頂けるよう家族に話をしている。面会時には、居室でゆっくり過ごしてもらえるよう努めている。職員は、部屋の整理整頓や、衣類の入替等を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活が送れるように環境作りに努めている		